

各品目で管理項目がまとめられています。

取組内容には、具体的な管理手段などが記載されています。

メモは取組内容の補足説明などが記載されています。

現状の取組をチェックし、IPM取組状況を確認します。チェックできなかった取組については、次作のIPM実践の参考にしてください。

IPM実践指標モデル（水稻）

管理項目	管理ポイント		チェック欄
	取組内容	メモ	
水田及びその周辺の管理	1) 農業の効果向上と水質汚濁防止のため、畦畔の整備、畦塗りなどにより、漏水を防止する。		
	2) 畦畔・農道・休耕田の除草等を行い、病虫害の越冬場所を減らすことにより、次年度の発生密度を低下させる。	アシカキはイネごま葉枯病の、サヤヌカグサはイネ白葉枯病の伝染源であるため、除草する。	
	3) 次年度の雑草等の発生を抑制するために稲刈り後早期に耕耘する。	イボクサ、オモダカ、クログワイ等の抑制効果がある。キシユウスズメノヒエには逆効果のため、草種に注意する。	
	4) ケイ酸質資材を施用する。	イネのケイ酸含量を高めると病虫害抵抗性が增强される。土壤診断結果に基づいて施用量を決定する。	
適正な品種の選定	5) 立地条件に応じて、いもち病など抵抗性を考慮した県奨励品種を選定する。	葉いもち病抵抗性（みえのゆめ（中生）：強、みえのえみ・あきたこまち・ヒノヒカリ（早生）：中、コシヒカリ（早生）：弱）	
健全種子の選別	6) 種子更新を行い、種子伝染性病害の発生を抑制する。	イネいもち病、イネごま葉枯病、イネばか苗病、イネもみ枯細菌病は種子伝染が主要な伝染経路であることから、健全種子を使用する。	
	7) 塩水選を行い、健全な籾を使用する。		
種子消毒	8) 化学農薬、温湯消毒または生物農薬による種子消毒を実施する。	化学農薬 ①廃液が出にくい方法（種子粉衣等）、②適切な廃液処理法（活性炭等）のいずれかの方法により、手順と留意事項を厳守して実施すること。	
		温湯消毒 60℃の温水に10分間浸漬する。実施する際は手順と留意事項を厳守すること。	
		生物農薬 トリコデルマ アトロビリデ水和剤、タラロマイセス フラバス水和剤、パチルス シンプレクス水和剤がある。実施する際は手順と留意事項を厳守すること。	